

〒130:墨田区向島郵便局私書箱16号

TEL : 03-3829-3715

FAX : 0422-48-4015

郵便振替番号: 東京8 - 704589

従軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク

従軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク

우리ヨソンネット알림

「ウリ」は「私たち」

「알림」は「お知らせ」



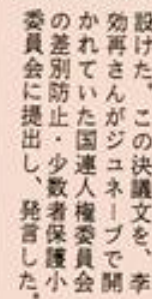
第3号

1992年10月31日 発行

九月一四日午前一〇時、ア
ジア太平洋戦争犠牲者
補償請求事件一審判決の第二回
口頭弁論が、東京地裁第七一
三号法廷で開かれた。

事前提出して、打ち合わせ
をおこない、この「準備書面」
の提出をもって「法廷陳述し
た」ということになるらしい。
だから、新聞紙上で「……と
国側が陳述」となっているも
それが当日法廷で陳述された
ものとは限らないということ
だ。

冒頭のやり取りに続いて、
文玉珠さん(元慰安婦)、姜
仁昌さん(元軍夫)、鄭瑛永
さん(元軍人)らの陳述が
こなわれ、最後に再び準備書
面をめぐって高木弁護士、林
弁護士が意見を述べた。高木
弁護士は、慰安所の衛生管理
監督、衛生管理等に日本軍が
関与していたことを認めると
いうことか、と再三問いただ
した。



このような広がりの中、
八月一〇・一一日には、慰
安婦問題解決を求める「延
身隊問題アジア連帯会議」
が韓国・日本・台湾・香港
・フィリピン・タイなど六
カ国・地域の女性たちの参
加によりソウルで開かれた。
そこで「韓国、朝鮮、中国、
台湾」などアジア各国にお
いて全ての民間団体及び個
人による強力な連帯が必要
との決議文を採択すると、
この決議文を採択すると、
また、連絡ネットワークを
設けた。この決議文を、李
効再さんがジュネーブで開
かれていた国連人権委員会
の差別防止・少数者保護小
委員会に提出し、発言した。

不誠実な日本政府調査結果
このような動きがあるに
もかわらず、七月六日、
日本政府は慰安婦問題の調
査結果を発表(二二七点の
資料を含む)して、軍の関
与を認め、強行調査した。
た。これに対して翌日、韓

日本政府は徹底した真相
究明をなおざりにしたまま、
「補償に代わる措置」とし
て「人道上の問題から、国
益の立場から」という理由
をつけて「基金」案を韓国
政府に打診している。日本
の世論も「日韓協定」で済
んだ問題と見る向きも少な
くない。国際法上の責任問
題が出る前に早く決着をつ
けようという意図が見えて
ならない。このようなその
場しのぎの対応は、元慰安
婦の人たちを始め、韓・日
の人として、国際世論から大
きな反響を受けるだろう。
真相究明とともに、南・北
朝鮮、アジアに広がる元慰
安婦たち全体を視点に入れ
た補償問題解決が急がれて
いる。日本政府を被害当事
者が納得できる解決の道に
進ませるために、いま何が
できるのか、私たちに問わ
れている。(朴潤南)

またもや保身答弁に躍起の日本政府

「不知」の一言で事実認否とは



この度の公判で、元慰安婦
の文玉珠さんは、慰安婦時代
に兵隊たちがくれたチップを
貯めた郵便貯金の返還を切実
に訴えていた。この郵便貯金
に付いては、現在熊本貯金事
務センターに保管されている
原簿に「文原玉珠」の名で記
載されていることが、下関郵
便局を通じて確認されている。
にもかかわらず「不知」とは、
法廷での文さんの切実な訴
えを思い起こすと、あまりの
誠意のなさには愕然とする。第
一回、第二回と傍聴して心に
残るのは、やはり原告らの悲
壮な訴えである。原告席の張
りつめた空気が、法廷に緊張
感を与える。

主張
前掲した夏を
はじめアジア
の各国で「慰
安婦問題」は
戦後補償問題
に広がりをみ
せ、再燃して
北朝鮮では元慰安婦に対し
て、日共同で聞き取りを
し、「皇軍」の残虐な証言を
が明るみにされた。北朝鮮
国内の元慰安婦は現在で
一三三人にのぼるとい
う。インドネシアでも、旧日本
軍により現地女性数千人が
慰安婦にされ、ジャワ島で
は、オランダ女性を強制的
に慰安婦にしていたことが
判明した。中国でも、元慰
安婦四人と三人の遺族が日
本大使館に調査書を提出し
賠償を求めた。また、台
湾人元慰安婦二人(台湾で
は元慰安婦が少なくとも一
八〇人から二五〇人になる
とみられている)と、フィ
リピン人元慰安婦が初めて
証言をし、日本政府に対し
て謝罪と補償を求めた。

慰安婦問題を韓・日間の
関係だけでなく、国際的な
場で解決をはかろうという
動きも活発になってきた。
人権小委員の現代奴隷制作
業部会では、国際教育開発
と十六の国連NGO(非政
府機関)が参加し討議が交
わされ、慰安婦問題を国際
的重大人権侵害事件として
とらえ、「賠償問題は解決
済み」との日本政府の立場
を批判した。国際教育開発
は「請求権を消滅させる協
定は国際法の強行規範(ユ
ス・コーガンス)に違反し
協定の一部ないし全部が無
効となり、日本政府は補償
しなければならない」と
主張した。同部会の報告書
には「慰安婦問題について
情報を提供するよう国連事
務総長に要請する」と明記
し、さらにこれまで取り上
げてこなかった「強制労働」
被害者への補償問題を
新たに提示、従軍慰安婦問
題に継続して取り組むこと
を表明した。これらの具体
的な行動として人権小委員
は今年の一二月に真相究明と
補償問題調査のために、特
別調査官を南北朝鮮に派遣
することを決定した。国連
の動きに呼応し、日本にも
ファン・ボー・ベン調査官を
二月九・一〇日招聘して、
国連に積極的にうちかける
ことになった。

国連も焦点に
国挺身隊問題対策委員会、
太平洋戦争遺族会などは非
難の声明を出し、韓国の各
全国新聞は一斉に批判の社
説を載せた。アジア、米国、
英国のマスコミでもこの調
査結果の不十分さは大きく
批判されており、ヨソソ
ネットも行動ネットワークに
名をつらねて声明を発表し
た。調査結果は日本政府が誠
意をもって取り組んできたの
か疑いたくなるような内容
だ。韓国だけでも名のり出
ている元慰安婦が六五人(九
月末現在、生存者)にの
ぼっている。彼女たちの証
言に真摯に耳を傾け、「慰
安婦狩り」をした加害者の
調査は今すぐにでもやれる
ことである。

補償問題、真の解決のために

トロントにもグループ誕生

朴和美(ハク・フアミ)



LOS ANGELES

私は九月五日から二三日まで休暇を利用して、ロスアンジェルスとトロントを訪れた。今回の旅では観光客的な物見遊山よりも、韓国系アメリカ人としての韓国系カナダ人の女性たちとの交流を主な目的の一つにした。

と、志は大きく持ったもののこれといったコネのない私にどれだけのネットワークキングが出来ようかと、志以上には大きな不安を抱えての出発だった。でも、結果としてはLA・トロント・東京という三つの点をしっかりと結んだと実感できる実り多い旅となった。

LAでは、今年四月に国立婦人教育会館で開かれたアジア女性会議で知り合ったLA在住の日本人女性の紹介で、WORK (Women's Organization of Korea) (Korean Women's Association) というグループの女性たちと交流した。このWORK (W.O.K.) というグループは、韓国系アメリカ人女性の抱える問題を共に考え解決してゆくことで、個人としての成長とコリアン・コミュニティの発展を目指すことを目的として五年前に設立されたそうだ。特に女性のプロフェッショナル(専門職)とリーダーを育てることに力を注いでいる。実際、今回私が会った中にも弁護士などの専門職に就いている女性が多かった。

彼女たちの「私たちの力で在米韓国社会を良くしてゆくのだ」という自負心と、自信に満ち溢れた姿に強い感銘を受けた。それと同時に彼女たちの前向きな生き方を支える社会の在り様に多少の羨望を禁じ得なかった。また、在日コリアンの私たちとアメリカ社会に生きる彼女たちとの

歴史性と社会構造の違いを強く意識させられた。現在、コリアン・コミュニティの至る所に散在するLA暴動後遺症に悩まされる真摯にその問題に取り組んでいる彼女たちに、今すぐ「慰安婦問題」に積極的に取り組むことを期待するのは無理なようだが、だが、私たちが世界に向かって行動を起こそうとする時、力強い味方になってくれることには間違いないなと思う。今後も交流を深めてゆきたいと思う。

トロントでは、ヨソネットの発足以来、積極的に運動に関わってきた運営委員の一人である田光礼(チヨン・グアン)を訪ねた。彼女が、夫の留学に伴ってカナダの経済の中心地・トロントに移り住んですでに半年が過ぎようとしている。英語での生活にも慣れはじめた光礼は精力的にネットワーク作りに励んでいる。

光礼のアレンジで韓国系カナダ人女性会(Korean Canadian Women's Association)の長老メンバーと夕食を共にした。この女性会は一九八三年に何人かの有志によってその端緒が作られ、二年後の一九八五年に正式に発足し現在ではオンタリオ州政府からの資金援助も受けている。カナダに在住する韓国系女性が日々直面する問題(家族問題、あるいは社会問題も含めて)の相談相手になりその問題解決の手助けを主な目的にしている。現在の大きな問題の一つは「夫による家庭内暴力」だそう。

彼女たちは女性会のプロジェクトの一環として、すでに慰安婦問題協議会を設立し、活動を始めたばかりだ。一〇月八日に、カナダでは初めての

の従軍慰安婦問題に関する集会を開催し、光礼がヨソネットの活動を主軸に日本での運動の取り組みを、そして夫の大倉一郎さんが、日本の戦後処理と戦争責任について報告をした。ヨソネットからも励ましのメッセージを送った。

女性会は、一月には元慰安婦だったハルモニを韓国から招き記者会見を、二月には在カナダの韓国系対象のグッドウィルを決定している。なにより英語の資料も限られており、圧倒的な情報不足に悩まされているのが現状で、光礼を通じてのヨソネットとのネットワークキングが大いに期待されている。

今回の旅を終えて日本に戻ってから、NY在住の在日二世の友人からも連絡があった。高山妙子さんの慰安婦のイラストを見たことがきっかけでアジア系の女性たち一五人へ教会関係がまだ非公式だが、慰安婦問題に取り組むグループを作ったという。トロントのグループと同じように、やはり日本からの情報欲が強いとのこと。また、NYにヨソネットのメンバーが訪れるような機会があるなら、是非交流したいとの申し出を受けた。

といった具合にネットワークの輪は着実に世界に向かって延びている。金英姫は、今年すでに二回中国を訪れ、元慰安婦のハルモニにも会ってきた。ドイツにもこの問題に取り組み、在ドイツの韓国系・日本人女性が作ったグループがある。

この慰安婦問題を世界の歴史に正確に刻もうと、世界のあちこちに点在する朝鮮人女性が立ち上がった。私たち朝鮮人女性の明日を新たに創るために、今日勇気を持って、この手に取り戻したい。

캐나다 한인 여성회

Korean-Canadian Women's Association



ロスアンジェルスで



トロントで田光礼たちと

独(毒)断インタビュー

慰安婦問題の足跡をたどり、訪中した金英姫さんに聞く。



「どうでしたか」「えー、とっても」

六月十九日から二〇日、中国東北地方に慰安婦の足跡をたどる旅が行われ、ヨソネットからも三人が参加した。アルム編纂者は、当然今回の旅では訪中見聞録をまとめることになり、三人はそれぞれ役割分担をした。金英姫さんは、何をかくそう、この旅で一番得たものは、人間味が溢れるものだった。韓国に滞在した時、何となく気が付いたときには、既に旅に報告を書いた後、何となく同じことを書くのはアルムに悪いじゃないかと、書けなくなってしまう。

六月十九日から二〇日、中国東北地方に慰安婦の足跡をたどる旅が行われ、ヨソネットからも三人が参加した。アルム編纂者は、当然今回の旅では訪中見聞録をまとめることになり、三人はそれぞれ役割分担をした。金英姫さんは、何をかくそう、この旅で一番得たものは、人間味が溢れるものだった。韓国に滞在した時、何となく気が付いたときには、既に旅に報告を書いた後、何となく同じことを書くのはアルムに悪いじゃないかと、書けなくなってしまう。

六月十九日から二〇日、中国東北地方に慰安婦の足跡をたどる旅が行われ、ヨソネットからも三人が参加した。アルム編纂者は、当然今回の旅では訪中見聞録をまとめることになり、三人はそれぞれ役割分担をした。金英姫さんは、何をかくそう、この旅で一番得たものは、人間味が溢れるものだった。韓国に滞在した時、何となく気が付いたときには、既に旅に報告を書いた後、何となく同じことを書くのはアルムに悪いじゃないかと、書けなくなってしまう。

六月十九日から二〇日、中国東北地方に慰安婦の足跡をたどる旅が行われ、ヨソネットからも三人が参加した。アルム編纂者は、当然今回の旅では訪中見聞録をまとめることになり、三人はそれぞれ役割分担をした。金英姫さんは、何をかくそう、この旅で一番得たものは、人間味が溢れるものだった。韓国に滞在した時、何となく気が付いたときには、既に旅に報告を書いた後、何となく同じことを書くのはアルムに悪いじゃないかと、書けなくなってしまう。



金

「從軍慰安譜問題のためのアジア連帯会議」 ソウルで開催

慎民子

八月一〇日・一一日、ソウルで「従軍慰安婦問題のため
のアジア連帯会議」が開かれ
た。

今やこの問題は、韓国・日本から始まり、世界各国の関心を集めるにいたった。国連人権小委員会においても調査活動が進められることになった。この時期に被害をこうむったアジア地域に住む女性たちが一同に会し、意見交換ができたことは、意義深い。

八〇年代からの韓国慰安婦

の方々によるアジアでの歴史的な躍り起こしや、問題提起の成果として、六ヶ国・地域から女性が集まった。韓国側の報告の中で、慰安婦の連行が末期には見境がなくなったが、始めのうちは貧しい農民層から連れさられたという指摘があった。よって階級差別があったとの主張である。「階級差別、女性差別、民族差別」

して国家権力による蛮行、の四つのどれが重要なのかということはなく、重層的に終み合っている」と、問題の原因が提示された。これに對し、タイ・インドの方々の「どの國も侵略した國の女性を犯してきた歴史があり、普遍的な女性差別の問題ではない」との発言があった。しかし、日本皇軍がわざわざ朝鮮から強制連行して使い捨てにしたという事実も明らかにしなければ問題の解決にならない。民族の問題か女性問題かという討論は様々なところでなわれて来たことである。今、議でも活発な討論がなされたが、韓国側が提示した四つの原因についての確認ができようである。特に、日本からは、日本皇軍獨特の問題であり、その本質は現代にも受

つがれていると考えられる。との主張があった。それは加害国の女性としての心の痛みを伴いながら、真摯に解決に向けて努力している姿勢をうかがわせる発言だった。

ところで韓国内では、女性問題としての視点が広がりにくいのだ、という。解放後半世紀もこの問題を隠蔽してきた社会である。「女の貞操」を一義的に考える価値観は、たやすく変わりはないのか、「民族の恥辱」「民族問題」を強調して運動を進めざるを得ないという。

日本で、PKO自衛隊派遣時にコンドーム携帯の問題が伝えられたが、韓国では健康軍合同のチーム・スビリティがある度に、「若い健康な女性を用意してほしい」といふ話がある、との発言があった。軍隊のあるところ必ずついて回る、よく聞く話であるが、とうてい許されることではない。

また韓国では、七〇年代の
キーセン観光追放運動が発端
として、「慰安婦問題」にいま
ついた、ということであつた。
慰安婦問題が半世紀もの間、
なおざりにされてきたことに
よつて、形を変え、現在も
お売買春問題が繰り返されて
いる。インドの代表は「生
た歴史」と表現したが、「生
まな問題が生き続けている
からこそ、国境をこえて様
々な人々が、自分の問題とし
考えているのではないだろ
か。」

現に被害者たちが、自分
体験を声高に証言するに
いった。北朝鮮・オランダ・
イリピンでも証言者が現れ
中国にも朝鮮女性の被害者
いる。また、台湾でも被害
を具体的に把握している。
湾の被害者は、「自らの運

とあきらめてゐる。「恥」と思つて公の場に出られないでゐる」。との報告があつた。そして今後は「元慰安婦の権利を求めて立ち上がり、彼女たちの姿を胸に焼き付けて、日本政府を追及しよう」とも考へてゐる」。との表明があつた。運動する人々の連帯が、被害者らの人権回復を生む。そして彼女らが地域を越えて連帯すること、真相がより明らかになる。日本政府が最も恐れてゐたであろう、朝鮮女性以外の国々の被害者の証言と、謝罪・補償要求はますます増えていくだろう。

こうした果敢な運動を支えてきたものは何か。垣間見たエピソードがある。会議のなかで被害者の発言があつたが興奮してしまつた発言者の左胸に二の肩を、韓国代表の左胸に抱いた。そして「五〇年

解して下さい」と語った。そこに証言者と運動する者との触れ合いの積み重ねを感じるのは、私だけではないだろう。その後、数々の質問があったが、被害者たちとの昔段の接触について、韓国側から

説明があつた。一なるべく、
する機会をつくり、生活上の
ケアを大切にしながらも、諸
々の相談にのつたり、心理的
な治療者としての役割も果
している。運動する者が運動
としてだけでなく、一個の
として、被害者の恨を共有し
ようとする姿勢があつた。

この会議で報告されたう
しい話を一つ。この問題に
心を持つ全ての人が、何よ
も心を痛める問題として、
被害者たちの今日・明日の生
活がある。その解決策の一つ

して、民間の力で住宅の創
造をしていくという。韓国仏
人権委員会の中で決められ
てのことであるが、「マンナム
プ」(出会いの家)建設委
員会が設立されたというのだ。
具体的な対策が提示された
わけだ。報告を聞いて、会場

大きな喜びの拍手が渦巻いた最後に「強制従軍慰安婦問題 アジア連帯（日本ではネットワークがつく）を発足させ、今後も連帯を深め、運動を発展させることが決議された。

ヨソネットでは、「在日だからこそ出来る問題として①真相究明・被害者の掘り起こし ②補償にかんする立法化の道をさぐる ③日本の歴史教育への反映、等々を考えていることを報告した。今一つ、日本での運動のさらなる広がりを図るための働きを続けたい。世界の女性の問題として広がりをもせた現在、各々の地域での地道な活動がより大切なのだと、思い新たにすることのできた会議だった。

なお、会議の報告集を準備中だと伝え聞いた。皆様に報告して共に発刊を楽しみに待たたい。



ご希望の方はヨソネット
までご連絡下さい。

「從軍慰安婦問題
アジア連帯会議報告集」
頒価一〇〇〇円



金 よく言えば部分的フレキシブルに旅が展開したんです。移動の時間とホテルだけは決まっています、その中に何カ所か行く場所・会う人が入っていると、つまり殆ど「出たところ勝負」だった。路上でも市場でも、これはと思う場面でも声をかけ話を聞きました。私はウリマルが「バツイチ」なので、声をかけて概略は何とかはつないでいて、尹先生と下さんを引つ張ってきて、聞き取りをしてもらう。テープレコーダーをしつかり持ちながら、片目で聞き取りの展開を追い、もう一方でカメラマンの裴昭さんを探すということをやりました。

K 聞き取りで感じたことは、金 生きた証言者の宝庫だと感じました。中国は歴史を大事にしないので、共同体のつながりが強いから、その人がわからなくても、すぐに当時を知っている人を連れてきてくれる。今回、延吉市内にある慰安所跡について語ってくれたのは、八路軍に参加したという朝鮮族のハラボジで、近所の人があのハラボジだったとすぐぐに連れてきてくれたんです。K 先ほど、韓国や在日と比較して、中国に住む朝鮮人、慰安婦の共通点と違いに興味があるといっていました。少し見えたものはありますか？金 解放前までは、もう同じだと思えます。延吉でも挺身隊に若い娘たちがとられると

十五、六歳で結婚したと聞きました。結婚相手を吟味する間もなくバタバタと結婚した朝鮮族が多く住む地方では、身障の影響が強いのですが、朝鮮族の少ない北のほうに行くとそのような現象はあまりなくて、また、地元的女性たちがその地で慰安婦になるということはなく、南方の方に送られた、地元だと猛反発があるからさすがにできなかつたんでしょ、もう亡くなつてしまつたけど、シンガポールと呼ばれた元慰安婦がいたと聞きました。きっと、シンガポールに送られて戻つてきたハルモニなんですよ。

金、ずいぶん違いが出たと思
います。中国では解放後から
五六年頃まで、国内的に戦後
処理と言うか、戦争で痛手を
受けた底辺の人たちをフォロ
ーアップしたんですね。元慰
安婦だった人たちには、本人
に罪はないと積極的に厚生院
に送ったり、生業につかせた
り、結婚を奨励したりしたそ
うです。敗戦後、駐留米軍に
今度は日本の女性を差し出す
うとした日本政府や、キーヤ

ン觀光で外貨稼ぎを奨励した韓国政府のあり方とずいぶん違うと思います。だから、中国では日本帝国主義の犠牲者という点では、国家的・社会的見解ははっきりしています。ただ、いまだ一貞操を奪われた女—というブレッシヤ—が朝鮮族の社会通念では、まだ、根強いようです。

K あれっ、急に紙面が尽きました。最後に一言だけ言いたいことがあれば、どうぞ、金 ありすぎて、ひとことでは言い尽くせません。

K ヒヤあ、次回に継続インタビューしましょう。

金 ありがとうございます。(つづく)

次回は元慰安婦のハルモニと会った話です。乞うご期待

聞き取り調査はむずかしい

我が隊にも朝鮮人慰安婦（証言者・井上裕氏を訪ねて）

九月一四日、井上さんのご自宅を訪ね、中国大陸を転戦した（昭和一六年から六年間）、第五三〇部隊北支派遣軍兵隊の頃の話をお伺いした。その頃、私は功績係だった。功績係は、郵便物の受領や軍人手帳に戦況を記録したり、また本部へ連絡出張などに出掛けたりする。独立混成部隊のため僻地駐屯で移動が多く、昭和一八年には山西省の万安鎮に駐屯した。ここは城壁に囲まれた治安のいい戦場の少ない地区だった。万安鎮から洪洞にある本部に向かった。二人の若い女性を連れて帰隊した。通達文書によって、彼女らは天皇からの賜物「慰安婦」であることとを知った。一八歳から二二歳ほどの「アイコ・トシコ」という日本名の朝鮮人慰安婦だった。この頃に配属された「志願兵」の朝鮮人兵士は京城帝大を卒業していた。彼等の教育係になってしまい、当然のように朝鮮人慰安婦の管理もわたしの仕事に属した。兵隊がかち合わないように、慰安婦のもとに通う順番を番号札に「A-11・B-11・C-11」などと印して支給し、慰安婦が兵隊から受けとった札を事務所に返すと、誰が何時に慰安所を利用したかがわかるようにした。二人で一日に六〇人くらいを相手していたが、兵士は若いこともあり一人の所要時間は五分から一〇分くらいのものであった。慰安婦は昼の二時から六時ころまでの勤務で、番号札を事務所にしきりと一日の仕事から解放される。煙草や毛布、米・生活物資などが代償として支給された。兵士と金のや

りとりはなかったはずだ。いや兵隊並に月に五円ほどの煙草銭を軍から支給されていた。二人は江原道と海州から女子挺身隊として応募してきたのだ。とよく故郷の話をしていて、一年半後、上海に近い「真如」に移動のとき、糧秣や弾薬を運ぶトラックに彼女らを乗せて一日五時間くらい歩きつづけた。途中幾度か彼女たちを確認していたのに、上海に戦地で女性だけで逃亡などは考えられず、移動中は旅団や大隊のある基地を通過したのだから、指令によって配置換えになったのではないかと、彼女たちには情が移っていた。妙に淋しいような気がした。自分の経験で言えることは、二〇〇人の中隊に二人の朝鮮人慰安婦がいた、ということだけだ。派遣軍が二〇〇万人と推定すると、単純計算で二万人の慰安婦が動員されたことになる。また経験からいえば、慰安婦が最前線の塹壕で兵士を相手にすると、朝から夜まで兵隊を相手にするなどという無茶な状況は考えられな

い。慰安婦といふのはそれなりに大事にされていたはずだ。これだけの話をスムーズに聞かせていたわけでは、ない。彼は自分がいかに朝鮮人志願兵に慕われ、また彼等を労ったかを語った。二人の朝鮮人慰安婦が故郷をなつかしう語っていた。と言いつつ、性奴隷状況を嘆いたか、話さない。若い朝鮮人志願兵や朝鮮人慰安婦と同じ時代を、逆な立場で生きた者としての個人的な思いを覗かせる言葉は一言もなかった。中国の駐屯地は、はたして六年間ずっと治安がよかったのか。対中国侵略戦争を闘ったなかで、修羅場を目撃することはなかったのか。……彼からそういう話を聞くことはできなかった。しかし井上さんは「問題」の風化を嘆き、また日本が再び過去の過ちを重ならないために、どこへいって証言してもいい、とくりかえした。過ちの中味については勝手に推測する他はない。しかし元慰安婦たちには、金に代えられな

い。戦いながら、いかに自己保身してゆくの厳しい現実だけがあるだろう。人間であることと同時に、いやおうなく民族の歴史を背負って生きなければならぬ者として、「かく生きた」と証言をする。ことに、証言者がいる。通り一遍の訪問者に、そういう証言が得られるはずもない。ただ私は、八十一歳の井上さんに、「戦後」はまだ訪れていない、というのを感じた。慰安婦問題の社会化によって、苦い悔恨を吐かせ、気持ちを乱しているのかもしれない。沈光子（シム・クアンジャ）

なぜ、今なのか

姜春子

発足の時に金明美さんに誘われながら今頃、入会した新参者です。お仲間に入れた頂いて見渡して見ますと、みなさん、自然体な方ですね。仕事や各自の状況に合わせて関われる部分で参加し、決して無理をしないでいい。そこがすごいです。ところで、また私が大変、気に入っています。私は自分も自立していると思っていました。自分の欲求を確実に把握している人間だと自負していたのです。妻、母、どれも自分という人間の属性に過ぎない。誰かのため



に生きてきたのだと思っていまし。夫を三年前に亡くし、障害の子を手元から離した今、私はどうして然としているのです。愛する者を離したという悲しみだけが理由ではないようだと気が付きました。私は一人暮らしの経験がありません。自分一人のために食事を作ったことがない。自分のためになんと途端に作る意欲喪失、取るに足りないようなことかも知れないけれど、それは象徴的だ。私は自分のために生きて来なかったからじゃないかと思つたのです。子どもの一人がたまたま障害者であったことで母としての属性が強められ、私をして誰かのために生きる人間にしてみました。何年前かに古い日記に千田氏の著書や従軍慰安婦問題の資料を読んだ感想があり、「つらい、耐えられない。こんなことがあり得たとは思えない。どうして何でこの私局、そのまま筆を折ってしまふ。当時の私には、この問題に

読前



「朝鮮人女性のみな」「慰安婦問題」を読んで金東秀（キム・トンス）

読後



Very Good!

従軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク

우리요손넛트

「우리」は「私たち」 「알림」は「お知らせ」

資 料 編

今号の資料は、ソウルで開かれたアジア連帯会議（本文1面・主張と3面の報告参照）で採択された決議文、及び韓国挺身隊対策協議会が10月13日に発表した日本政府に対する「公開書簡」を収めました。「公開書簡」は日本政府の「基金案」に対する反論と、挺身隊の見解が明らかになっています。



公 開 書 簡

内閣総理大臣 宮沢喜一貴下

1. 慰安婦問題は日本が行った戦争犯罪の中でも、世界に例のない、最も非人道的で残虐な国家的犯罪行為であります。私たちはこの慰安婦問題の隠された真相を究明し、被害者に対する謝罪と賠償が行われなければならないと要求してきました。これは元慰安婦たちの踏みにじられた人権を回復する運動であります。また韓日両国間の歴史の歪曲をただすことであり、二度とこのような戦争犯罪が起こらないよう世界に警鐘を鳴らすことであります。
2. 今年1月に訪韓した首相はこの問題に対して謝罪と反省の意を表明し、実態調査を約束しました。その後、貴国政府は7カ月間の調査結果を7月に発表しました。私たちはすでに、この調査結果が資料の羅列に過ぎず、加害の具体的な内容・命令・責任の所在に対する言及のない極めて不誠実なものであると指摘してきました。

ご存じのように私たちはこの問題を国連人権委員会の議題として上程しており、世界は「人道に対する罪」の重大な事例である慰安婦問題の真相究明と、法的処理に対して強い関心を寄せています。戦後、この問題に関する資料が日本政府及び米政府関係者らによって故意に隠蔽・隠ぺいされたにもかかわらず、韓国ばかりでなく北韓・フィリピン・その他のアジア各国で被害者たちが証言をはじめ、資料も見見され始めています。

首相はこの犯罪に対する責任と賠償をはたすために、まず真相究明を徹底して行う必要があることを肝に銘じなければなりません。それとも訪韓時の「謝罪」発言と今回の調査報告をもって真相究明と謝罪の手続きがすべて終わったと考えているのでしょうか。もしそうでしたら、そのこと自体がこの問題に臨む貴国政府の不誠実さを端的に表すものに他なりません。人権と平和を愛する韓国をはじめ世界の人々の憤りの対象になるであろうことを厳重に警告します。

3. 私たちは最近、貴国政府が「賠償に代わる措置」として元慰安婦に対する生活扶助基金の創設を考慮中との報道に接して深い憂慮と憤りを感じています。貴国政府のこのような行動は、世界的な関心事として浮上している自分たちの恥すべき犯罪行為を、急いでお金で解決してしまおうという意図によるものであることは誰の目にも明らかです。私たちは貴国政府が「賠償問題は65年の韓日協定によって解決済み」とする立場

場をとっていることを知っております。しかし、繰り返しますが、慰安婦問題は65年当時、論議されておられません。また、人権に関する個人の権利問題はユース・コーゲンス（強行規範）によって国家間の協定ですらも消滅しないという事実を、首相と貴国政府がよくご存じだと思います。したがって「賠償に代わる措置」としての「生活基金」は道理にかなぬ欺瞞的な発想であることを指摘しておきます。つまり、日本政府は賠償問題を論じる前に真相究明を徹底して行うことが、私たちに對するより誠実な姿勢だということです。真相が究明されてこそ法的責任と賠償の具体的な額も明らかになるからです。

もちろん元慰安婦たちは高齢で健康も悪く、一日も早く賠償をうけることを願っています。しかし、彼女たちは「日本が自らの犯罪性を認めずに渡すお金はもらうことができない。それは私たちに再び侮辱する行為である」と叫んでいます。もし、貴国政府が彼女たちの貧しさを口実に、名分のないお金を払って適当に済まそうと考えているのであれば、それはまったく間違っております。私たちは、彼女たちの生活支援は私たち国民の義務だと考えており、「元慰安婦を助けるための祝国民募金運動」を繰り広げています。貴国政府が欺瞞的な基金創設の発想を捨て、誠実に真相究明に取り組まれることを願ってやみません。

4. 最後に、私たちは貴国が慰安婦問題と戦争・戦後責任を明らかにせぬまま平和維持軍を海外に派兵し、国連常任理事国になろうと努力していることに対して深い憂慮を抱かずにおれません。貴国が経済力にみあった国際貢献をしようと真に思うならば、まず過去に貴国が行った戦争犯罪に対する清算から行われなければならないことを強く主張したいと思います。

私たちは日本が人権と平和を尊重する国家としての責任を全うされることを要求します。

1992年10月13日

韓国挺身隊問題対策協議会

共同代表 尹貞玉 李勉再 朴純金



決議

「従軍慰安婦問題のためのアジア連帯会議」に出席した私たちは、植民地支配と侵略戦争によって、女性の性の奴隷化と人間の尊厳を抹殺されたことを確認し、次のような決議を採択する。

従軍慰安婦問題は、天皇制ファシズム・日本軍国主義の組織的な強制連行、輪姦、拷問、虐殺など前代未聞の残忍な犯罪行為である。これは家父長制と一体化した軍国主義がいかに女性の性を無惨にじゅうりんし、人間性を抹殺したかをあからさまに見せている例である。従って従軍慰安婦問題の解決こそが、戦争の再発を防止し、平和を構築していくために重要であると考えます。

日本は自らが行った罪に対し、反省の色も見せず、戦後処理に対する責任も回避している。それだけではなく、最近PKO協力を通過させ、それによって自衛隊海外派兵の道を開いた。このことに対し、私たちは日本軍国主義の復活を憂慮せざるをえない。

日本は、アジア各国の真の隣国となるために、過去の歴史を反省し従軍慰安婦問題をはじめとする戦後処理に対する責任ある態度をとるべきである。

私たちは、この問題解決のために取り組んでいる韓国・朝鮮・中国・台湾・タイ・フィリピン・インドネシア・マレーシア、そして日本などアジア各国において、全ての民間団体・及び個人による強力な連帯が必要であることを確認した。今日、この会議に出席した韓国、台湾、フィリピン、香港、タイ日本6カ国の代表たちは「強制従軍慰安婦問題のためのアジア連帯ネットワーク」を結成し、次のような決意を確認した。

1. アジア太平洋戦争によって被害を受けたアジア全域にわたる従軍慰安婦に関する実態調査を継続していくこと。
2. 従軍慰安婦問題に対する真相糾明、賠償、補償など、日本の責任ある戦後処理を要求していくこと。
3. UNをはじめとする世界人権機関などに、従軍慰安婦問題の解決のための協力を要求すること。
4. 今回の会議に参加できなかったアジア各国にも「連帯会議」に参加するよう促し、私たちの連帯を強め、固めていくこと。
5. 私たちは、アジアの女性の人権尊重と世界平和のために努力する。

1992年 8月11日

強制従軍慰安婦問題のためのアジア連帯・ネットワーク

- 1日 東京地裁で「アジア太平洋戦争犠牲者補償請求」裁判第1回口頭弁論(第2回は9月14日)。原告は元慰安婦5人を含む19人
- 1日 原告団、支援団体が都内デモ行進
- 1日 神田パンセで「いま問われる戦後責任-第1回口頭弁論報告集会」
- 2日 金宇順さん原告4人と黄緒周さん。日本の総理府で訴えの仮差押書提出
- 3日 太平洋戦争犠牲者遺族会、日本厚生省を訪問して元軍人・軍医91人の生死確認申請
- 5日 神奈川民団連、第5回総会で今年3つの国籍要件(地方公務員、戦争犠牲者、高齢者・被害者の制度的無年金者)徹底運動すること決定
- 6-7日 奈良県女性解放共同など「従軍慰安婦」情報ホットライン実施。元陸軍衛生曹長が、赤十字船で慰安婦6~700人を軍用で輸送と証言
- 7日 サハラに連行されたユ・チャンジュンさん、カザフから50年ぶりに妻と韓国で再会
- 7日 下関で「文玉珠さんの軍事郵便貯金の支払いを求める会」結成集会
- 8日 東京地裁で金宇順さんら同題BC級戦犯の補償裁判第3回口頭弁論
- 12日 温子で「温子市議会における民族差別に対する抗議・学習集会」が開かれ300人参加
- 15日 中野区議会、「従軍慰安婦問題の戦後補償等を行うことを求める意見書」を賛成多数で可決
- 15日 韓日会談時首席代表だった金澤補元外務部長官、第2回会談で久保田重一郎(当時の日本側首席代表)が「今後、日本側の補償行為が明らかになった場合、賠償をする」ことを公式約束したと指摘。慰安婦問題は明白な違法行為であるため、賠償要求が可能と発言(東亜日報のインタビューで)
- 16日 韓国政府外務部、法務部で韓日協定の解釈見直しなど法律検討を進めており、「賠償請求のため法的な問題とともに政治的妥協法などを検討している」と明らかに
- 17日 韓国慰安婦、日本のPKO法案国会通過に同法の撤回を求める声明
- 18日 温子市議会総務常任委員会、「朝鮮人強制連行労働調査事業費」として(92年度一般会計で)197万円の補正予算案を全会一致で可決
- 19日 平和都市推進課でも3年がかりで強制連行調査を進めること決定
- 19日 中国東北地方へ慰安婦問題の調査団出発
- 19日 長崎市の三菱重工長崎造船所に強制徴用された金順吉さん(釜山市在住)が未払い賃金と慰安費の所在確認を求め国と会社を相手取った民事訴訟を起こすと明らかに
- 19日 長崎の高島町(軍艦島)で、旧三菱石炭鉱業増島炭鉱で亡くなった犠牲者をしのび遺族たちが追悼式
- 20日 韓国外務部、サハラに連行された高島無縁故1世同胞150人余が9月韓国に永住帰還すると発表
- 20日 共和国の延平郡理、乙巳条約、無効宣言など、日本に南北共同で謝罪・補償を求めようと書簡で鄭元植・韓国国務総理に提案
- 21日 沖縄で、元軍夫・金在星さん軍夫・慰安婦の慰霊祭
- 22日 東京地裁で、金宇順さんの旧日本郵政訴訟第2回口頭弁論開かれる
- 24日 大阪地裁で、鄭商模さん裁判の第7回口頭弁論開かれる。日本国側、反論を延期
- 24日 韓国慰安婦問題対策協議会、韓国政府に「金鍾泌一大平メモ」の真相の公開を求める声明を発表
- 24日 朝鮮労働新聞、共和国の元慰安婦・尹京愛(72)さんの証言掲載

- 1日 韓国慰安婦問題対策協議会、日本のPKO法案の撤回を求めデモ
- 1日 朝鮮労働新聞、共和国の元慰安婦・李ヒョン淑(70)さんの証言を掲載
- 2日 韓国国史編纂委員会、291校(普通学校高等科と中学校など)の学級簿調査の結果、14校で73人が「慰安婦」として日本に動員されたと発表
- 2日 戦傷者の陳石一さんの「意義申立書」(保護法適用申請が却下されたことへの)が棄却。陳さんと支援団体は訴訟に踏み切るもよう
- 3日 愛知県で「日本の戦後責任を求める愛知の集い」開かれ、朴七封・黄緒周さんら原告団と遺族が参加
- 3日 韓国外務・内務部など17の関連部署からなる「慰安婦実務対策班」が

- 被害申告結果を発表。8月中旬をメドに一次報告書を作成、公開予定
- 3日 在日南北の仏教徒(在日本韓民族仏教徒連合会と在日本朝鮮仏教徒協会)、9月1日に「祖国統一祈願強制連行犠牲者同胞慰霊会合同法要」等を実施
- 4日 (聯合通信) 清水議員、参院予算委員会で軍事郵便貯金問題を関連資料を提示し質問したことが明らかに
- 4日 大阪で「元従軍慰安婦らによる戦争補償を求める裁判闘争を支援する6・4大旗集会」が開かれ、李貴粉さんら原告団と遺族25人が参加
- 4日 日本の調査結果発表に先立ち、在中日本大使館が中国外務省に結果を通報。中国側は日本側が今後何らかの措置を取る場合、中国を韓国と同様に扱ってもらいたいと回答
- 4日 朝鮮労働新聞、共和国の元慰安婦金大日(76)さんの証言掲載。金さんの証言は共和国全国のテレビでも流された
- 6日 日本政府、慰安婦問題の調査結果発表(127件の資料提示)。軍の関与は認められ、強制連行については資料がないと否定
- 6日 加藤官房長官、韓国に対し補償に代わる何らかの措置を検討と表明
- 6日 韓国外務部、日本政府の調査結果発表を論評。調査の努力を評価した上で、「今後日本政府の具体的で誠意ある措置がなされるように望む」
- 7日 韓国慰安婦問題対策協議会と太平洋戦争犠牲者遺族会、記者会見で日本政府の調査結果は無誠意で形式的であると批判。徹底した真相究明を求めた
- 7日 日本政府の調査結果発表に韓国の全国新聞各紙が反発の社説。(東亜日報・7日、朝鮮日報・ソウル新聞・京郷新聞・8日など)
- 8日 米「ウォールストリート・ジャーナル」日本版の調査結果に論評
- 8日 韓国誌「朝鮮日報」、補償の前に真の謝罪を、と社説
- 9日 中国外務省見解、日本政府の調査結果に不満。中国の被害者も少なくない。一日本側が態度かつ真意に、この問題に対処、処理することを希望する
- 10日 朝鮮民主主義人民共和国外務部スポークスマン、日本政府の調査結果発表にコメント。「日本当局は一先全貌を明白にし、心から謝罪したうえで、被害補償をすべき」
- 10日 京都強制連行調査団、結成1周年の集い、400人参加
- 10日 韓国政府、日本政府とは別に元慰安婦に独自の補償措置を検討開始
- 10日 伊東秀子議員、台湾当局や民間団体で構成する「慰安婦問題対策委員会」がまとめた調査結果を入手。加藤官房長官に提出
- (6月末までに、42人の慰安婦確認、内死亡13人、行方不明1人)
- (聯合通信) 韓国MBCテレビ、8・15特集として「従軍慰安婦」の全容を描いたドキュメンタリーを製作中。8月中旬に放映予定
- 11日 日本弁護士連合会人権擁護委員会、日本の戦後処理を問うシンポジウム開催。人権擁護委員会は「被害の実態」「補償の課題」「戦後処理のあり方」を考えるの3部からなる中間報告書を出した
- 11日 広島市の「韓国原爆犠牲者慰霊碑」の移設に、民団と経連が名称等で合意。平和公園内に「南北第一碑」として10月に移設が決定
- 12日 「在日の戦後補償を求める会」が鄭商模さんを迎え、「在日韓国・朝鮮人戦後補償を求めるアピールの会」開催
- 12日 インドネシア誌「コンパス」、旧日本軍によりインドネシアでも現地女性数千人が慰安婦にされた、と証言を中心に報道
- 13日 インドネシア政府、慰安婦問題に関して見解。「日本政府が非を認め謝罪したことを歓迎」としながら、日本政府に調査の継続と必要な措置を取るよう求めた
- 17日 宮沢首相、記者会見で参院選後に慰安婦問題への措置の本格化を示唆
- 18日 「アリランのうた」上映1周年記念報告集会(これまで全国98カ所で自主上映)
- 19日 鄭商模さんの戦後補償裁判を支える会などによる「在日韓国・朝鮮人の戦後補償を求める全国キャンペーン」がスタート
- 21日 旧日本軍がジャバ島でオランダ人女性を強制的に慰安婦としていたことが(ハーグ軍事法廷戦犯裁判記録から)判明
- 21日 インドネシア誌「テンボ」は、オランダ人女性に関する慰安婦問題を特集を組んで報じた
- 21日 韓国外務部関係者、慰安婦問題に関して韓国政府が、日本政府の真相究明と事実確認、補償を含む後継措置、歴史教科書への反映等に段階的に対応していく方針と明らかにした
- 24日 「在韓被爆者問題市民会議」第5回総会。今後被爆2法を日本国外被爆者に適用する可能性を法的側面から研究する方向
- 25-6日 「第3回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」が広島で開催。80団体、400人以上が参加

- 25日 中国海南日報(25日付け)によると、映画監督・陳国軍氏が、慰安婦とされた中国女性たちを描く映画、「慰安婦74分隊」撮影の計画を明らかに
- 31日 韓国政府、中間報告(「日帝下の軍隊慰安婦実態調査中間報告書」)発表。「日本軍は慰安婦政策の発案、慰安所の設置、慰安婦の募集、輸送、管理など全ての面にわたって全面的に介入した」。強制徴用については、「朝鮮総督府は動員命令を隠微に下達、軍部隊での補給、看護補助、軍需工場の女子工員などと偽装したと推定される」と、「強制や強迫に近い方法を使った」との結論を導き出すことが可能(金鍾友アジア局長)との見解を示した
- 31日 韓国政府の調査結果発表に対して外務省、「参考にしたい」、強制連行については、「あくまでも調査方法の差だろう(外務省側)」としながら、「日本のお詫びや反省の気持ちは強制連行の有無で違えるものではない(同側)」との立場を強調
- 31日 加藤官房長官、韓国政府の求めについて(調査報告書の中で)「誠意ある措置」に関して、「先延ばしにする気はない、できれば年末までに決めたい」とし、補償に代わる「謝罪の気持ちを示す措置」を来年度予算で実施する意向表明

- 1日 日本政府、「補償に代わる措置」について、日本政府が全額出資の財団を韓国に設立、運用を同財団にゆだねる方向で検討開始。外交ルートを通じて韓国政府と内容を詰めた上で具体案を年内決定。来年度予算に盛り込む方針
- 北朝鮮で、「従軍慰安婦」および太平洋戦争被害者補償対策委員会(呉文漢委員長)が発足
- 4日 国際平和研究学会総会に参加した学者113人が声明発表。「従軍慰安婦および世界中で続けられている様々な形の性による奴隷化」について「人類に対する犯罪(人道に対する罪)」として認め、国際法で厳くべき」
- 9日 「全国朝鮮人強制連行真相調査団協議会」(栗原通会長)が、北朝鮮に調査団派遣。北の元慰安婦らの実態調査
- 6日 フィリピンのニッキ・コステン上院議員(女性)が徹底調査を求める決議案を議会に提出する方針
- 7日 中国の民間グループ(強制的に慰安婦にさせられた中国人4人と死亡した3人遺族ら、山西省の陳林模さんら山西、山東、江西三省の女性たち)が、北京の日本大使館に調査書を提出。賠償要求。一人5万~12万ドル、計67万ドル。(中国では今春の第7期全国人民代表大会第4回会議で、民間賠償を請求すべきとの議案が一部代表から出されていた)
- 10日 ソウルで韓国、日本、フィリピン女性たちによって「アジア連帯会議」開かれる。日本、韓国、台湾、フィリピン、香港、タイの約100人が参加。報告で、台湾では元慰安婦の47人確認。うち14人が死亡、32人が生存、1人が消息不明。また、フィリピンではアジア女性人権委員会など3団体が連帯組織を結成、フィリピン政府に対策を促している。沖縄でも百カ所以上(沖縄だけで)の慰安所がある、等が確認された
- 11日 前日に続く「アジア連帯会議」で、「強制従軍慰安婦問題アジア連帯」を結成。同会議は今後、①アジア全域での実態調査 ②日本政府への補償要求 ③国連人権委への協力要請を推進することを確認
- 12日 北朝鮮で「従軍慰安婦及び太平洋戦争被害者補償対策委員会」の呉文漢委員長が、「現在つかんでいる国内(北)の元従軍慰安婦は123人」と発表(新聞社、テレビ局、同委員会に名乗りでた人の集計。うち20人は対外的に証言してもいいと言っている)。「今後、本格的な調査に乗り出すとその数はさらに増えるだろうが、政府機関から呼びかけはせず自発的な申告に任せたい」
- 「全国朝鮮人強制連行真相調査団協議会」は、北の元慰安婦・李福女(73)、金大日(76)、金英美(69)、李京生(75)さんら4人の元慰安婦から聞き取り調査。元慰安婦たちは証言の動機について、日本国内で「金銭的補償目当てに軍と行動を共にした」という内容の報道があったと北朝鮮国内で紹介されたため、憤りを感じた、という
- 12日 社会党「韓国戦後補償問題議員調査団」(団長=五十嵐三三郎議員、国会議員5人で構成)が韓国入り
- 12日 吉田清治さん、ソウルで開かれた「強制連行の証言と慰霊祭」(太平

- 洋戦争犠牲者遺族会主催)に参加。自らの過去を直説謝罪
- 14日 訪韓中の社会党「韓国戦後補償問題議員調査団」が金鍾友韓国アジア局長と協議。金局長は「当面は真相究明が第一で、補償問題はその後だ。日本側が主体的、積極的に調査すべき」と日本政府に要請
- 14日 李効再代表(韓国慰安婦)らの国連人権委での発言を前に、ジュネーブの国連人権委小委員会が資料収集。来年度までに特別報告書を作成することを決議
- 14日 林博史関東学院大学・助教授が防衛庁防衛研究所図書館でマレーシア関係の資料(日本政府調査関係資料に含まれていない)を発見。現地での調査で各地に残る慰安所などを確認(14日付、朝日新聞)
- これに關し、防衛研究所は「現在も調査中」とコメント
- 14日 北朝鮮を訪問中の「全国朝鮮人強制連行真相調査団協議会」と北朝鮮の社会科学者などが「日本の植民地支配と補償を考える日朝共同シンポジウム」をピョンヤンで開催
- 14日 韓国千人訴訟(光州に住む原告ら1069人で今年2月に提訴。提訴時弁護士はついていなかった)で日本国内の弁護士9人が代理人として選任
- 15日 大阪で「アジア太平洋地域戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む会」のシンポジウムが開かれ千人が参加。集会では元日本軍関係者が加害者として発言の他、韓、米、オランダからもパネリストが参加
- 15日 台北市の「台北市婦女救護社会福祉事業基金会」が記者会見。台湾人元慰安婦と台湾に残された朝鮮人元慰安婦一人が初めて証言。台湾人元慰安婦は180~250人になると同会が予測
- 15日 中国で対日賠償求め、10万人組織が結成される。「中国民間被害者対日索赔連合会」(本部・河北省石家荘)
- 17日 日本政府側、14日の国連人権委小委員会の決議に関連、「日本も国連のメンバーなので、協力要請があれば協力する」と表明
- 18日 「朝鮮人強制連行真相調査団」、韓国慰安婦と共同でジュネーブの国連人権委員会記者会見。およびロビー活動開始
- 18日 国際的人権NGOの「国際教育開発(IED)」代表が国連人権委員会の差別防止・少数者保護小委員会に発言。日本政府の韓日条約での「請求権消滅」の立場に「国際強行法規(ユース・コーゲンス)」に反するとして法的批判
- 18日 中国・上海の市民グループ、天皇訪中時に謝罪を求める書簡を日本大使館に提出。南京虐殺に対する慰安と賠償の意志表明を求めた
- 19日 日本政府側、国連人権委員会が慰安婦問題を取り上げられていることに関連し、「要請があればいつでも(報告を)出す」とし、先の調査結果を国連に提出する用意があることを明らかにした
- 21日 ファン・ボーベン元国連人権センター所長、国連人権委員会の差別防止・少数者保護小委員会に日本政府に資料要求の方針を明らかにした
- 25日 国連差別小委員会でNGOの「リパレーション」と「朝鮮人強制連行真相調査団」が共同で発言。また、各国のNGOから日本政府の資料提供と補償問題解決を求める発言が相次ぐ
- 25日 韓国慰安婦、国連人権委員会の差別防止・少数者保護小委員会が今年の12月に慰安婦動員の真相究明と補償問題調査のため、特別調査官(ファン・ボーベン氏)を南北朝鮮に派遣することを明らかにした。調査結果は国連事務総長に提出予定
- 28日 韓国の元慰安婦ら369人が、日本政府に補償(総額約105億円)と謝罪を求めて提訴(東京地裁)。同訴訟では韓日併合条約(1910年)の無効確認も求め、主権や人権を侵害され被害を受けたとしている。韓国の弁護士12人も原告に加わっている
- 31日 韓国慰安婦、日本政府の基金案を来年度予算案に包含させることに関連し、徹底的な真相究明の後に公式的賠償が行われなければならないと反対声明を発表。韓国政府にも日本政府の基金を受け入れるべきでないと警告するとともに、政府レベルで元慰安婦たちの生活対策を立てることを要求

- 1日 「アジアの平和と女性の役割」討論会がピョンヤンで開かれる。
- 6日 慰安婦問題についても協議される
- 3日 東京で開かれていた韓日議連合同総会で韓国側、戦後処理分科委員会の設置提案
- 4日 韓国民主党と日本社会党が、慰安婦問題で共同調査委員会設置を合意
- 14日 東京地裁で、「アジア太平洋戦争犠牲者補償請求」裁判の第2回口頭弁論開かれる。元慰安婦の文玉珠さんら3人が陳述
- 14日 はっきり会主催により、第2回口頭弁論報告集会
- 15日 大阪、従軍慰安婦問題を考える会主催で集会(200人参加)、デモ
- 16日 東京で、従軍慰安婦問題行動ネットワーク主催により、補償裁判原告らの証言を聞く集会開かれる。250人参加
- 19日 日本の戦争・戦後責任を問う朝鮮半島の統一に連帯する9・19集会
- 19日 マリアロサ・ヘンソンさん、フィリピン人元慰安婦として初めて証言